



新たな入学者選考としてのA0入試（大学教育研究センター第7回研究集会）

夏目，達也

(Citation)

大學教育研究, 08:96-101

(Issue Date)

2000-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81004663>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81004663>



講演「新たな入学者選考としてのＡＯ入試」

夏目達也（東北大学アドミッションセンター教授）

東北大学の夏目でございます。ただいまご紹介がありましたように、司会をされていらっしゃる川嶋先生と私は大学院で一緒にいたしまして、かれこれ20年ぐらいつき合いをさせていただいています。

さて、それでは本論に入らせていただきますが、その前にあらかじめ配付していただきました資料に沿って、報告の項目を説明させていただきます。まず1番目にアドミッションズオフィス入試とは何かということで、簡単にＡＯ入試の概要を説明します。2番目にはＡＯ入試導入の背景、経過として、中教審の答申、その他について簡単にご説明申し上げます。3番目には全国の大学での実施状況ということで、急速にＡＯ入試が普及している状況についてご説明します。4番目には東北大学でのＡＯ入試の概要をご説明いたします。最後に若干のまとめといたしまして、特に高校との接続との観点からとらえた今後の課題につきまして、報告をさせていただきます。

さて、私に本日与えられましたテーマは、「新たな入学者選考としてのＡＯ入試」です。まずＡＯ入試とは何かについて考えてみたいと思います。レジュメにも書いておきましたけれども、ＡＯ入試とはアドミッションズ・オフィス入試の略であります。アドミッションズオフィスのＡＯをとりましてＡＯ入試と、このように呼んでいるわけです。最近、この名称はいろいろな場所、メディアに登場していきまして、この場にいらっしゃる先生方もいろいろな場所で目にされ、あるいは、耳にされていらっしゃるのではないかと思います。受験雑誌を見ましても、しばしば特集が組まれておりますし、さらには一般の雑誌、例えば教育問題にある意味では熱心なサンデー毎日でも取り上げています。さらには、NHKニュースでも取り上げられています。ちょっとしたＡＯ入試のブームになっているような、そんな感じもあります。

このＡＯ入試という名称は比較的普及していますが、しかし、具体的な目的や内容方法につきましては必ずしも理解されているわけではないというのが現状だろうと思います。ここにいらっしゃる先生方も必ずしもＡＯ入試のすべてを理解していらっしゃるわけではないでしょうし、正直に告白いたしますと、かくいう私もＡＯ入試のすべてについて正確に理解していると申し上げる自信は全くありませんでして、いろいろ勉強しながらＡＯ入試を進めているところでございます。そのような人間がこの場に出て、皆様にご説明申し上げるのも大変僭越と存じますが、しかし、実際にＡＯ入試に携わっていること、そして国立大学としては初の試みであるということ、その主に2点を唯一の強みとして、私のわずかばかりの経験を踏まえながら、ＡＯ入試について報告をさせていただきます。

まず、最初にＡＯ入試とは何かということでございますが、これは先ほども申しましたように、アドミッションズ・オフィス入試の略であります。アドミッションズ・オフィスとは言うまでもなく、アメリカの多くの大学に置かれている入試業務を担当している主として事務組織であります。このアメリカのアドミッションズ・オフィスからとりましてＡＯ入試と、命名しているわけであります。

日本におけるＡＯ入試は、1990年に慶応大学の湘南藤沢キャンパス、これは俗に言うＳＦＣと略しているようですが、そこで実施したのが最初と言われております。しかし、一躍有名になったのは1997年6月に中教審の第二次答申、『21世紀を展望した我が国の教育のあり方について』という答申です。その答申は大学、高等学校の入学者選抜の改善について1章をさいております。その中で、総合的、かつ多面的な評価など、丁寧な選抜を行うということの必要性がうたわれています。該当部分の内容はこのレジュメに示したとおりでございます。一般的な大学入試をめぐる状況についての説明がいろいろ書いてあります。

1つは、いわゆるよい大学への進学を意識することによりゆとりがなくなっているということです。受験勉強による神経をすり減らす若者が多くなっている、多様な生活体験等の機会が減っている、過度の受験競争により、高校等の教育を受験のための知識の詰め込みに偏らせているというような、いわゆる大学入試をめぐる、よく言われているような状況が説明されております。

そういう状況に対して、どのように改善するかという方策もあわせて示されているわけですが、その中の1つは入学者選抜の改善のあり方というところでまとめられております。学力試験偏重から選抜方法の多様化、評価尺度の多元化への展開ということです。一言で言いまして、総合的、かつ多面的な評価など、丁寧な選抜という言葉でまとめられているわけです。具体的には学力試験だけでなく、調査書、小論文、面接、実技検査、推薦文等の活用をすべきだということがうたわれています。

もう1つは、多様な活動経験や学習成果の評価ということでありまして、多様な職業経験や活動経験、特定分野のすぐれた能力や学習成果の評価のほか、専門高校や総合学科の卒業生や社会人への配慮、こういった点にも留意すべきだとされています。そして、改善のための条件整備の1つとして、アドミッションオフィスの整備がうたわれておりまして、そこには我が国の大学の特性を踏まえた日本型のAOのあり方の検討、その格段の整備を図ることが望まれるというように記されています。この中教審の答申は読まれた方はすぐお気づきになったかと思うんですが、直接AO入試という言葉を使っているわけではありません。しかし、その趣旨は明らかに現在行われているようなAO入試のそれだと思われます。

先ほども申しましたように、1990年に慶応大学の湘南藤沢キャンパスが現在言われているAO入試を全国で初めて実施しました。それに続いて、いくつかの私立大学が実施しました。この中教審答申の後に、国立大学でも実施する動きが出てまいりました。東北大学もその1つでありまして、私どもの東北大学のほかには筑波大学と九州大学、この3つの大学で平成12年度入試からAO入試を実施することになりました。あわせて、AO入試の具体的な内容や方法等の研究開発、企画、広報、さらには、AO入試の実施を担当するアドミッションセンターという新しい組織が3つの国立大学に設置されました。

中教審答申では現在のAO入試の基本的な考え方は示されましたが、AO入試の具体的な内容や方法までは示されていません。そのことは現在に至るまで、事情は同じでありまして、文部省もAO入試の内容や方法については何ら定義や基準を示していません。それらは各大学の自主的な判断に任せるというのが文部省の方針です。

AO入試というのは、これこれこうだというように一口で説明できるようなものではないことが、このような状況からもご理解いただけるかと思います。ただし、制度上の位置づけや各大学に共通する特徴というものは幾つか指摘することができます。その1つは入学者選抜方法の区分というものです。従来の入試に関しましては、いわゆる伝統的な一般選抜と推薦入学等の特別選抜があります。AO入試は、これら第1の一般選抜、そして第2の特別選抜に並ぶ第3の柱であることが1つの特徴です。

第2の特徴は、推薦入学には課せられている制限がAO入試には課せられていないということです。ご存じのように、推薦入学に関しましては平成6年の文部省通達で、推薦入学の募集人員を全体の3割にするという通知が出されておりますが、平成12年度からはこれが5割に緩和されることとなります。AO入試の場合につきましては、このような募集人員に関する制限は一切設けられておりません。また、受付開始時期につきましても推薦入学が11月1日以降とされています。しかし、AO入試に関しましては、この受付開始時期の制限もありません。したがって、いつ募集をかけてもいいということになっております。実際、各大学の申し込みの状況を見ますと、早いところでは6月から7月で始まっ

ておりまして、締切りのピークも9月と言われております。推薦入学と比べまして、かなり早くなっています。

このように、一年中、いつ募集をかけてもよい、しかも人数の制限も基本的にないことになります。そうしますと、学生募集に熱心な大学、少子化の中で受験者数が減っている現状にあっては、多くの大学がそうならざるを得ないと思いますが、学生募集に熱心な大学にとっては大きな魅力になると思われます。恐らくそのことを反映して、AO入試は急速に普及しております。

次に全国の大学での実施状況について簡単に報告させていただきます。

まず、AO入試の方法についてですが、これは、大学により多様であります。AO入試という名称を用いるからには、共通したものも多いのだと思うられるかもしれませんが、そうではなくて、非常に多様です。ある受験関係者に言わせると、共通する要素は恐らく面接があることだけだろうというぐらいなんです。

ちなみに、先頭を走りました慶応大学のSFCでは以下のような方法で行われております。大きく分けまして一次選抜と二次選抜、この2回に分けて実施します。まず一次選抜の書類審査では志望理由書や高校時代の活動報告書などを、職員と教員が共同して審査を行うということです。かける時間が長く、一受験生に2時間をかけています。実際、最終的に合格するのは2学部で150人ぐらいだと思います。一次試験の受験者はその8倍といえますから、大体1,000人くらいの応募です。1,000人近くの人数を1人につき2時間をかけるという非常に丁寧な選考をやっています。この一次選考をパスした者につきまして、今度は1人につき約30分の面接を行うというわけです。これが慶応大学の方法です。

次に、国立大学の1つである筑波大学で、今年度予定されている入試について簡単にご紹介します。ここも基本的には慶応大学と同じで、一次と二次の2回試験を行います。一次選抜では書類審査を実施し、志望理由書、自己推薦書及びその根拠となる添付書類を評価します。自己推薦書類は自分のできること、生かしたいと思う自分の素質、才能、大学でやりたいことなどを書くことになっており、同時にその裏付けとなる資料を添付してもらう。その添付資料は別に書類ではなくてもよく、マスコミ関係、あるいは芸能関係のものであってもよいそうです。

また、第2次試験では第一次試験合格者に対して、面接及び口述試験を行い、その結果と提出書類の内容によって総合的に判断するということであります。このほかにもいろいろな各大学がいろいろな方法を試みておりまして、1つは受験生を集めて講義をして、その理解度を試すというような方法を採用している大学もあります。また、ごく簡単な基礎テストを行っている大学もございます。さらには1泊2日ぐらいかけてセミナーを実施している大学もあります。このように実に方法は多様であります。

ただ、大体、共通する特徴は、先ほど言いましたように、面接があることぐらいだということなんですけれども、その面接に関して言いますと、時間は約30分、回数は2回ぐらいが普通と言われております。1回目の面接では主に高校時代での成績や活動について聞き、2回目は大学での学習生活、将来の進路など聞くのが一般的であるようです。

このような特徴を持つAO入試の導入にふみ切る大学が、このところ増加しております。旺文社の調べによりますと、平成11年度に実施した大学は14大学でした。関西地区では同志社大学、立命館大学、芦屋大学がこれに当たります。そして今年度、平成12年度の実施状況は国公立大学が4校、国立大学が3校と公立大学が1校で合わせて4校ということになります。私立が70校、合計74校ということで、わずか1年間で一気に5倍もふえているということでもあります。

募集人員を見ますと、平成12年度の全国の大学での募集人員は概算で約5,000名から5,200名と言われております。平成11年度の国公立大学の推薦入学全体の入学者総数が16万9,000人ほどだと言われておりますから、大体その3%ぐらいがこのAO入試の募集人員ということになります。

このように急速に普及しているために、平成12年度はAO入試本格化元年と言う人もいるぐらいです。また、平成12

年度は従来私立大学に限定されていましたが、国公立大学が新たに参入する年度でもあります。

次に、東北大学におけるＡＯ入試の概要について簡単に説明させていただきます。

私が勤務いたします東北大学では平成12年度入試から歯学部と工学部でＡＯ入試を実施することになりました。このうち、工学部では第１期から第４期まで、４回に分けて実施することになっております。それぞれ受験資格、選抜方法、実施時期等が異なっております。詳しくは本日配付していただきました資料に平成12年度東北大学ＡＯ入試概要として、出願資格、出願期間、選抜方法について簡単に説明しております。工学部の１期は、募集人員14名ですけれども、主に社会人を対象としているというのが１つの特徴です。これは能力があるけれども、何らかの理由で大学に進学できなかったという方々、しかし企業等で能力を伸ばされて、大学に入ってもう１度勉強したいという方々を対象にしています。

２期は募集人員75名で、いわゆる現役の高校生を対象にしています。これはいわゆる大学入試センター試験を課さないタイプの推薦入学を発展させているものです。３期は、センター試験を課す推薦入学を発展させたもので、既卒者も含めた高校生を対象としています。４期が主として在外子女を対象としています。もう１つの学部であります歯学部のＡＯ入試は工学部の３期と同じく、推薦入学を発展させたものです。

このように工学部と歯学部で実施することになったわけですが、それではなぜ工学部と歯学部で実施するようになったのか、その理由について説明します。工学部は推薦入学の と を通じて、優秀な学生をリクルートできていたことが背景にあります。

工学部の先生方は熱心に自分の母校を中心に高校を訪問して、優秀な学生がいたら推薦してほしいとお願いしました。その結果、非常に優秀な学生が多く入学してくれたという事情があります。これに非常に意を強くしまして、もう１段入試改革に取り組んでみようじゃないかということになりました。またちょうどアドミッションセンターができたというようなこともありまして、これと一緒に取り組もうという発想です。

それからもう１つの実施学部の歯学部では、推薦入学はやっていないけれども、後期試験で面接を取り入れるなど入試改革に取り組んできた実績があります。これをベースにしてＡＯ入試に切りかえていくことになりました。多分、この大学の歯学部も事情は同じでしょうが、本学でも学生の勉学意欲の向上が重要な課題です。その一環として、入試で面接を採り入れましたが、なかなかうまくいかない。面接をやるとまさに判で押したように志望理由は、おばあちゃんが入れ歯で苦しんでいたということのようです。おばあちゃんがおじいちゃんに変わるぐらいはあっても、本当に判で押したように同じようなことを言うようです。本当におばあちゃんがいるのか、何歳とかいうふうに聞いてみるとか、あるいは他はどこを受験したのか、それはひょっとしたら医学部じゃないのか、いろいろさぐりを入れながらやっているわけです。もともと入学前から学習意欲という点でやや難がありますから、どうしても入学後の勉学という点で問題があるということです。入学者選抜に関しても何とかしなきゃいけないという問題意識は非常に強く歯学部の中で共有されていました。

工学部と同様、アドミッションセンターが設置され、入試を専門に扱う部署であるから、リクルートとか、あるいは入学者選抜というところに関して専門的な知見が得られるだろうということでＡＯ入試に踏み切ったというような経緯がございます。

採用している方法は基本的にはほとんど他の大学と同じようなパターンでありまして、一次選抜と二次選抜があり、一次選抜では書類選考を行います。一人一人につきまして、担当となっている教官、これは私もセンターの教官もちろん入っておりますけれども、あとは実施学部である工学部の教官、あるいは歯学部の教官で慎重に審査をします。一次選抜合格者には二次選抜に臨んでいただいて、そこで面接を行う。工学部では４期とも小論文も受けていただきま

す。

この8月20日に第1回のAO入試、第1期を実施しました。先ほども言いましたように、これは社会人を対象としています。募集人員14名に対して6名の受験者でした。受験者が少なく少々残念でしたが、募集の方法とかPRの方法を考えないといけないなと反省しています。

最後に今後の課題を簡単に申し上げます。

第一に、入学者選考方法としての可能性をめぐる検証ということについてであります。これはどういうことかと言いますと、入学後の教育に必要な能力や資質を持った人が入ってほしいということを大学側としては当然期待しているわけです。AO入試でも同様です。その資質の中には、東北大学のことをよく知った上で、何としても東北大学に入りたいという、強い意欲も含めているわけです。そういう必要な資質を持った受験者、学生が欲しいと言う割には、しかしその資質とか、能力というものを具体的に明示できているだろうかということ、ちょっと待てよという感じがします。

これに関しては、大学入試センターが過去に大規模な調査をしています。各学部で入学後の教育で成功するためにはどういった能力が必要なのかということを、大学の教官だけではなくて、学生も対象に実施したものです。その調査では、必要な能力がいろんな言葉で語られています。論理的思考力、語学への感心、数理能力、読書力などです。それをもっと具体的な言葉に翻訳してみる、もっとわかりやすい言葉で表わしてみるということを、ぜひともやる必要があると思います。しかし、その検討、協議というものがなかなか行われていない。少なくとも、東北大学では行っていません。優秀な学生が欲しいという思いだけでは、本当に欲しいと思うような学生はリクルートできないと思います。

私どもの大学は特に学力を重視したいということを盛んに強調しております。これは工学部、歯学部でも全く同じです。大学教育を受けるには絶対に必要なものとして高い学力があることを大前提にして、その上で $+\alpha$ のある学生です。それではAO入試で学力を評価できるかということ、正直に申しまして、これは私ども非常に頭を悩ますところです。ペーパーテストは行わないということになっておりますので、それではどうするか。

面接で見ようということもあるんですけども、本当に面接でわかるだろうかと感じています。私どものAO入試の場合、工学部1期では、面接は1人につき40分ぐらいかけてやっております。20分、20分の2回に分けて、それぞれ観点を異にしてやってはいますが、とても学力を正確に完全に評価しているという自信はさすがにありません。もう一つの方法は、小論文ですが、小論文でもやはり時間的な問題もありますし、おのずと限界があります。そこをどうするかという問題もあります。

課題の2番目といたしまして、丁寧な選抜方法というように一般に言われますけれども、その内実づくりをめぐる問題です。先ほど申しましたように、AO入試の方法は非常に多様であります。しかし、似ているところがあるわけですね。面接を実施しているとか、小論文を課しているということです。そうなりますと、推薦入学と一体どこが違うんだという話になるわけです。これは私ども高校等に説明に行きますと必ず言われます。

センターは発足したばかりですので、まだこれから研究しますということで、苦し紛れで逃げているんですけども、いつまでもこれでは通用しません。工学部の先生は推薦と何ら変わりませんと高校向けの説明では言っていますし、実際、そのように言うと高校側にはよくわかっていただけるわけです。しかし、私どもセンターとしては全く同じと言うわけにもいかない立場にありまして、何らか推薦と明らかに違うという方法を考えていかなきゃいけない。これが課題だろうと思っています。

それから3番目には、高校教育への影響という問題です。AO入試はかなり早い段階で行われます。したがって、合格者もかなり早い段階で発表になります。そうなりますと、合格者は勉強を全くしないとは言わないまでも、勉学意欲

がかなり低下することは間違いないだろうと思います。しかも、私どものターゲットとします受験者は優秀な、いわゆるトップレベルの生徒ですから、そういう生徒が極端に学習意欲を低下させたときに、残りの生徒に対する影響というのは、かなり深刻なものがあるだろうと思います。そこをどうするかという問題です。

4番目には、AO入試についての正確な理解をいかに広げていくかです。私どもは学力重視だということを盛んに言っているんですけども、しかし高校の説明会に行きますと、東北大学もとうとうここまできたかという意識です。どうということかと言うと、東北大学もとうとう人物本位になったか、学力重視はやめたかということを言われます。AO入試＝人物本位、学力はともかくとして人物だ、あるいは高校時代のボランティア活動だ、AO入試ではそれらが評価されるんだという意識のされ方が強いようです。「東北大学よ、おまえもか」という雰囲気になっています。「違いますよ」と盛んにアピールするんですけど、まだ十分には理解されていません。

5番目には、高校の先生方に非常な負担をかけているということです。私どもこの点は注意をしているつもりです。特に推薦入学の場合と違いまして、高校には評価書を出していただく。推薦ではなくて、この生徒はこういう能力があるという評価書を書いていただくことにしています。その評価書を簡単なものにするとか、一応注意は払っているつもりですけども、しかしよく聞きますと、評価書の記入の他に、小論文の書き方の指導、あるいは面接の指導というようなところで、高校の先生方にご負担をおかけしているようです。この問題をいかに解決するかを、大学とし真面目に考えていかなければならないと思います。

時間もきましたので、とりあえずこれで終わらせていただきまして、もしディスカッションの時間がありましたら、その場でまたご報告させていただきたいと思います。どうも、ありがとうございました。

資料「新たな入学者選考としてのAO入試」

東北大学アドミッションセンター教授

夏目達也

新たな入学者選考としてのAO入試

東北大学アドミッションセンター

夏目達也

1. アドミSSIONズ・オフィス (AO) 入試とは

- ・一般選抜、特別選抜と並ぶ第3の選抜
 - 募集定員に占める割合や選考期日の制限がない。
- ・明確な定義はない→ 文部省は定義・基準を示していない。
- ・選抜方法——各大学により多様。面接の実施が最大公約数？

2. AO入試導入の背景・経過

中教審答申『21世紀を展望した我が国の教育のあり方について』（平成9年6月）

「第2章 大学・高等学校の入学者選抜の改善」

- ・「よい大学」への進学を意識することによるゆとりの喪失。
- ・受験勉強による神経のすり減らし、多様な生活体験等の機会縮小。
- ・過度の受験競争により、高校等の教育を受験のための知識の詰め込みに偏らせる。
- ・「入学者選抜の改善の在り方」
 - ・学力試験偏重から、選抜方法の多様化・評価尺度の多元化への転換
 - 「総合的かつ多面的な評価など丁寧な選抜」
 - 学力試験だけでなく、調査書、小論文、面接、実技検査、推薦文等の活用。
 - 「多様な活動経験や学習成果の評価」
 - 多様な職業経験や活動経験、特定分野の優れた能力や学習成果の評価
 - ・社会人、専門高校総合学科の卒業生への配慮
- ・入学者選抜改善のための条件整備
 - アドミッション・オフィスの整備
 - 「我が国の大学の特性をふまえた日本型のAOの在り方の検討、その格段の整備を図ることが望まれる。」
- ・慶応大学SFCでの先駆的な試み（1990年から）。
 - 以後、同志社大学、立命館大学などで実施、次第に広がる。

3. 全国の大学での実施状況——急速な普及

※ 旺文社『蜚雪時代 1999年9月臨時増刊号』から

- ・平成12年度の実施校は国公立大4校、私立で70校の計74校。
- ・募集人員は概算で5,000～5,200名
- ・平成12年度実施の国公立大……東北大学、筑波大学、九州大学、岩手県立大学

4. 東北大学におけるAO入試の概要

- ・平成12年度入試から歯学部と工学部で実施。
工学部—I・II・III・IV期の4回
対象者や実施時期、選抜方法が異なる（資料参照）。
- ・全学的な統一基準を設定せずに、各学部の独自性の尊重が原則。

5. 今後の課題：高校との接続関係の観点から

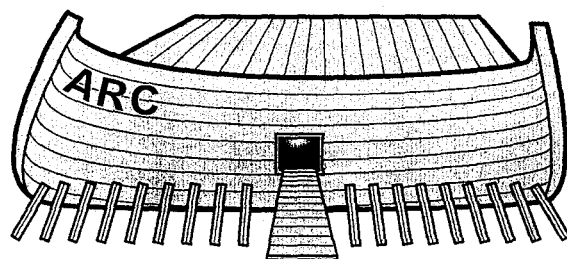
- ・入学者選考方法としての可能性をめぐる検証
入学後の教育に必要な能力・資質：その明確化、その評価方法
とくに学力の評価
- ・「丁寧な選抜方法」の内実作り
推薦入学等との差異をいかに際立たせるか。
- ・高校教育への影響、受験準備に関する負担
- ・高校教育との新たな接続関係の構築
入試前の高校側への働きかけ
合格後入学までの指導
入学後のフォローアップ：個々のニーズに応じた指導
- ・広報活動
有効な広報活動の方法・内容の検討・開発：その評価基準
大学からのメッセージの内容とその伝達方法
求める学生のプロフィール、入学準備、大学の「特徴」
オープンキャンパス等の取り組み
→ 内容の改善、担当スタッフの募集、研修、報酬
- ・業務量増大への対処
- ・教員・事務職員間の業務分担
- ・大学教育における入試の位置づけ

東北大学 アドミッションセンター

AO入試Q&A (平成12年度)

きたれ 自らを選びし者

—創世紀の海へ—



Admission Research Center of TOHOKU University

東北大学アドミッションセンター 紹介パンフレット

きたれ 自らを選びし者 一創世紀の海へー

平成11（1999）年4月、東北大学にアドミッションセンターが発足しました。平成12（2000）年度から他学部へ先駆けて、歯学部、工学部でAO入試を行います。このパンフレットは東北大学のAO入試とアドミッションセンターについてQ&A方式で紹介するものです。

I. AO入試って何？

Q1：AO入試とは何ですか？

A1：学力、勉学意欲ともに優れた人材を、多様な方法を用いて選抜する入試です。ペーパーテストを中心とした従来の方法にとらわれず、多様な方法の選抜を行います。具体的には、提出書類の審査をはじめ、小論文や面接などが用いられます。

Q2：東北大学で新たにAO入試が導入される理由は何なのでしょう？

A2：これからの時代、人々は新たな困難に直面することが予想されます。国際化、情報化、科学技術の高度化、高齢化・少子化などによって次々と起こる状況に的確に対処し、様々な問題を自らの頭で考えて解決していける獨創性、積極性、意欲、探求心を持った人材が必要になります。

東北大学では多様な資質や能力を持つ人を、広い範囲から選抜することにしました。平成12年度から導入するAO入試は、社会や大学の将来の発展に備えた新しいタイプの入学試験です。これからの社会を担い、リーダーとして活躍できる人材を集め、育てて行くために導入されたのです。

Q3：AO入試で期待されている志願者はどのような人でしょうか。

A3：「この大学なら受かる」という理由ではなく、「東北大学で学びたい」という強い意欲を持った方を期待しています。東北

大学は「研究第一主義」の精神に基づき優れた実績を上げ、海外でも高く評価されています。本学が望むのは勉強に疲れた伸びきったゴムのような人ではなく、入学してから自分を伸ばせるしなやかさを持った方です。困難に自ら飛び込んでゆくチャレンジ精神を求めています。

Q4：AO入試のAOとはどんな意味があるのですか？

A4：アメリカ合衆国で従来から広く行われている入試形態（Admissions Office, Office of Admissions）からとりました。アドミッションズ・オフィスは、入学する学生の選抜を一手に引き受ける組織で、アメリカの教育制度・文化に深く根ざした学生選抜を実施しています。東北大学アドミッションセンターでは、それに加えて入試改善のための研究を行います。

Q5：AO入試と従来の推薦入試とはどう異なるのですか？

A5：AO入試は、従来の推薦入試をさらに発展・拡充させたものです。

従来の推薦入試では、主にその年度に卒業する予定の現役高校生を対象に、高校時代の学習記録や本人の勉学意欲などに基づいて人物や能力を評価しています。新たに導入されるAO入試では、アドミッションセンター専任教官による研究成果をふまえ、従来以上に多角的に意欲や能力・適性などを評価します。また、工学部では、対象者と

して既に社会で活躍している方など、これまで入学しにくかった幅広い層を想定した入学試験も行われます（平成12年度AO入試工学部Ⅰ期）。

Q6：AO入試はどの学部で実施されるのですか。

A6：平成12年度は、歯学部と工学部で実施します。歯学部のAO入試は1種類で、高等学校を平成12年3月卒業見込みの者を対象に実施し、選考時期は平成12年2月です。工学部のAO入試には、出願資格、評価方法及び入学時期などにより4種類あります。出願時期等の情報はこの冊子の裏表紙をご覧ください。また、詳細については、アドミッションセンターにお問い合わせください。

Q7：受験生にとってのAO入試のメリットは何でしょうか？

A7：AO入試の工学部Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅳ期では、大学教育に必要な学力を前提としますがペーパーテストは行いません。その代わり、日常の活動状況や人物の評価による能力の判定をしますので、多様な資質を持った方々が入学機会を得ることができます。ただし、歯学部（5教科7科目）及び工学部Ⅲ期（5教科6科目）では、センター試験を受験していただくことになります。

また、自分の希望する学部がどのような能力・適性を受験者に期待しているかを事前に検討してから出願することができます。さらに、合格者発表の時期が一般入試の場合よりも早いので、自分の希望する専門について、入学前にじっくり考えたり、入学後の教育に備えることができます。

Q8：AO入試で入学した学生が入学後にハンディを負うことはありませんか？

A8：AO入試で入学した学生は、一般入試で合格した学生と全く同等に扱われます。したがって、ハンディになることは一切ありません。なお、大学入学資格（高校卒業、大検合格など）取得後4年以上経過した者を対象としたAO入試工学部Ⅰ期で入学した学生に対しては、円滑な勉学を援助する

ための措置をとることを検討しています。

Ⅱ. 東北大学アドミッションセンターについて

Q9：東北大学にアドミッションセンターが設立された理由は何ですか？

A9：入学者選抜（入試）は、従来、各学部で個別に実施されてきました。しかし、選抜方法の多様化や評価尺度の多元化、受験機会の複数化とともに、入試が複雑で分かりにくくなってきました。より丁寧な選抜を実施するためには、個々の学部では対応しきれない状況となっています。そのため、以前から、入試実施体制の整備・充実が課題となっていました。

今後、一層の入学者選抜の改善を図るために、入試に関する広い専門的知識に基づいて、入試に関する様々な研究を継続的に行うことが重要になっています。このような責務を担う全学的な専門機関として、アドミッションセンターが設立されたのです。

Q10：東北大学アドミッションセンターの組織・業務内容はどのようなものですか？

A10：アドミッションセンターは、現在、センター長の下、専任教員3名、事務官3名、で構成されています。アドミッションセンターには、①研究開発部門（AO入試の改善と開発に関する研究などを行う）、②企画・広報部門（AO入試・特別選抜入試の企画などを行う）、③実施部門（AO入試・特別選抜入試の選抜基準の作成などを行う）の3部門が置かれています。

Q11：AO入試についての資料は取り寄せられますか？

A11：AO入試の概要・募集要項については、平成11年5月に工学部Ⅰ期の募集要項が、また7月にはAO入試を含む東北大学入試全体の選抜要項が出る予定です。現時点では簡単な予告が発表されています。内容について取り寄せたい方は、アドミッションセンターまでお問い合わせください。

平成12年度東北大学AO入試概要

【歯学部】（募集人員 10名）

出願資格：高等学校を平成12年3月卒業見込みの者

出願期間：平成12年1月17日～21日

選抜方法：（第1次選考）書類審査、大学入試センター試験（5教科7科目）
（第2次選考）第1次選考資料に加えて面接

【工学部】

I期（募集人員 14名）

出願資格：平成8年3月以前に大学入学資格を取得した者（社会人など）

出願期間：平成11年7月9日～16日

選抜方法*1：書類審査、小論文、面接及び健康診断

II期（募集人員 75名）

出願資格：平成12年3月に高等学校を卒業見込みの者

出願期間：平成11年10月25日～29日

選抜方法*1：書類審査、小論文、面接及び健康診断

III期（募集人員 100名）

出願資格：高等学校を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者

出願期間：平成12年1月17日～21日

選抜方法*2：書類審査、大学入試センター試験（5教科6科目）、小論文、面接*3
及び健康診断

IV期〔10月入学〕（募集人員 若干名）

出願資格：①日本国籍を有し、保護者の海外勤務に伴って海外で教育を受けた者で、
平成12年9月30日までに18歳に達する等、一定の条件を満たす者

②日本国籍を有しない者で、外国での12年の学校教育課程を平成12年
4月1日～9月30日に修了した者、又は、修了する見込みの者

出願期間：平成12年6月23日～30日

選抜方法：（第1次選考）書類審査

（第2次選考）第1次選考資料に加えて小論文、面接及び健康診断

*1：志願者数が多い場合、書類審査による第1次選考を行うことがある。

*2：志願者数が多い場合、書類審査とセンター試験による第1次選考を行うことがある。

*3：特に成績が優秀な者については、面接を免除することがある。

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1番1号
東北大学アドミッションセンター
TEL (022)217-5416